

## 戦略的機能イノベーション研究所

Centre for the Research of Emergent functions in Artifacts and Technological Enterprises

### 研究所の概要

#### 1. 目的

本研究所の具体的な目的は、以下のような視点に基づく学術的知見に基づく議論を進め、そこから得られる知見を集約していくことである。

- ・産業別・製品分野別の生産物特性および生産プロセス特性
- ・国内の企業のつくり手としての強みや弱み
- ・製品による価値創造および価値獲得
- ・サービスによる価値創造および価値獲得
- ・ソリューションによる価値創造および価値獲得

#### 2. 設置期間

2017年12月1日～2027年3月31日

#### 3. メンバー

15名（所長を除く）

#### 4. 活動概要

国内の製造業、サービス産業などにおいて、つくり手側の多くの企業が方向性を見失いつつあり、国際競争の中で継続的に発展していくことに不安感を持つ傾向が出てきたことは否定しきれない。しかし、そのための国内企業の活動を中心とする学術的知見の構築に関する議論は薄めであったといわざるを得ない。

本研究所の方向性としては、このような状況の中で有効性があると考えられる、学術的知見に基づく議論を進め、その蓄積に努めていくものである。



#### 所長

吉田敏

YOSHIDA Satoshi

#### キーワード

Emerged Function（発生機能）、設計情報分析、人工物特性の把握感覚的価値の再現可能性

### 令和7（2025）年度の研究活動内容及び成果

#### 1. 活動内容

##### (1) トイレ製品領域のリーディングカンパニーの企業活動調査

国内のリーディングカンパニーにご協力を頂き、その事業モデルの特性を調査し、対象組織の強みと弱みに関する考察を進めた。また、トイレ以外の製品領域についても調査背せて頂きながら、日本の企業特性との関係性も考察を進めてきたところである。

##### (2) エレベータ製品領域のリーディングカンパニーの企業活動調査

エレベータについては、有形の製品であるエレベータそのもののコモディティ化について、仮説を立てながら理解を進めた。同時に、有形の製品ではない運用からメンテナンスの面について、かなりつくり込むことによる競争状態を認識し、次年度以降に調査を進めるものである。

(3) 医療領域の価値創造に関する研究

医学領域の研究者との協働により、これまで工学系の中で議論をしてきたつくり手の設計思想に関する応用を、医学領域で展開するものである。特に、診断面について、議論を進めてきたものである。

## 2. 成果

- (1) 活動内容の(1)・(2)については、次年度に継続していく内容であり、ここまでの考察についてはまとめたものである。地面度には、PPT ファイル等にまとめ、対象企業へのフィードバックを行う予定である。また、同時に、可能な範囲で林分化等を行い、外部に公開すること考えている。
- (2) 活動内容の(3)については、英文論文にまとめ、国際論文誌に投稿し、採択された。

## 令和8 (2026) 年度の計画

---

(1) トイレ製品領域のリーディングカンパニーの企業活動調査

(2) エレベータ製品領域のリーディングカンパニーの企業活動調査

R7 年度に引き続き、この二つの産業領域について、企業にご協力を頂きながら、実際の経済活動に関する調査・研究を行う。特に、日本の企業の強みと弱みについて、出来るだけ具体的な視点から考察を行っていくものである。

(3) サッシュ製品領域のリーディングカンパニーの企業活動調査

建築部材であるサッシュ製品に関し、その産業特性を調査・研究を進めていく。この領域についても、企業の協力を得ながら、実際のビジネス領域の特性を調査し、理解を深めていくものである。